

(別紙5)

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 25-2-006
補助事業名 平成25年度 子どもが幸せに暮らせる社会を創る活動 補助事業
補助事業者名 認定特定非営利活動法人ファミリーハウス

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

自宅を離れて遠方の専門病院で治療を受ける病気の子どもと付き添い家族のために、ファミリーハウスは、単に少ない経済的負担で滞在できる場所としてだけでなく、「その人らしく生きる」ことを支援するトータル（全人的）ケアの一環としての役割も期待されている。不慣れな土地での闘病生活という非日常の中で自分たちの日常を見出し、自分らしく生活するためには、自宅のような環境と、地元にいるときのようなコミュニティが必要である。家族の団らんの場としてのハウスの活用はもちろん、利用者同士やハウススタッフとの交流により、病児家族にコミュニティが形成されている。

さらに、近年では医療の進歩、入院期間の短期化などの医療政策の変化により、医療依存度の高い病児自身がハウスに泊まるというニーズも増えてきた。多様かつ高度になっているハウスニーズに対応していくためには、医療機関とのより緊密な連携が必要だが、医療関係者の皆様の中でハウスについての認知度は必ずしも高くない。そこで、トータルケアとしてのハウスの必要性・役割について医療関係者への認知度を向上させるため、本フォーラムを開催した。

(2) 実施内容

(URL) <http://www.familyhouse.or.jp/JKA/2013kenshukai/>

- ・ 検討委員会の開催（2013年6月8日、6月15日、9月21日）
- ・ ファミリーハウス・フォーラムの開催（2013年7月6日）
『病気の子どもと家族のトータルケアを考える
～「その人らしく生きる」ということ～』
- ・ 報告書の作成
- ・ 報告書の配布・WEB ページ掲載



検討委員会（第1回）



検討委員会（第2回）



検討委員会（第3回）

(別紙5)

ファミリーハウス・フォーラム



2 予想される事業実施効果

フォーラムには、目標であった200名を超える医療従事者等の参加者があり、参加者アンケートから「ファミリーハウスは必要である」との回答を得られ、事業目標は達成できたと考えている。また、当日のフォーラムの内容をまとめた報告書を印刷し、全国の小児専門医療機関や保健所、医療関係の大学等に配布をするるとともに、WEBにも公開をした。こうしたことから、フォーラム当日に加えて報告書を通じて、トータルケアとしてのファミリーハウスの機能を医療関係者に知っていただくことができ、ハウスと医療の連携強化の基礎となることが期待される。

3 本事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

- ・ファミリーハウスフォーラム報告書

<http://www.familyhouse.or.jp/JKA/2013kenshukai/> (URL)

(別紙5)



- ・ファミリーハウス・フォーラム告知チラシ
- ・ファミリーハウス・フォーラムプログラム

(2)(1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 認定特定非営利活動法人ファミリーハウス（ニンテイトクテイヒエイ
リカツドウホウジンファミリーハウス）

住所： 〒104-0041

東京都千代田区神田須田町1-13-5藤野ビル3階

代表者： 理事長 江口八千代（リジチヨウ エグチャチヨ）

担当部署： 事務局（事務局）

担当者名： 加納裕久（カノウヒロヒサ）

電話番号： 03—6206—8372

F A X： 03—3256—8377

E - m a i l： jimukyoku@familyhouse.or.jp

U R L： <http://www.familyhouse.or.jp/>